

アサーティブネストレーナーへの道

vol.9

被災地支援に活かすアサーティブネス

現地に赴いたトレーナー会員たち

3月11日の東日本大震災で被災された方々をはじめ、そのご親族・お知り合いの方も含め心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

3.11以降、私たちアサーティブジャパンに何ができるのか、事務局で話し合っています。その一環として継続的な支援のために受講料の5%を義援金にまわすことにするなど、自分たちにできることを長い目で見て続けていくことを計画しています。

事務局だけではなく、全国のトレーナーたちも被災地支援の活動を続けています。今回は2名のトレーナーに登場してもらい、被災地での活動や、そこでアサーティブネスがどのように役に立ったのか語っていただきました。

※アサーティブジャパンは、アサーティブネスを広く人々に知っていただく活動の一環として、「アサーティブネスの伝え手（トレーナー）を育成する」という大きなミッションを持っています。これまでアサーティブジャパンのトレーナー養成講座を修了された方々は、北海道から沖縄まで全国各地のそれぞれの現場でアサーティブネスを伝える活動を展開しています。

心のキズをおたがいの思いやりで 癒していけるようにしたい

山内明子

東京都在住。島根県松江市出身。
2000年東京トレーナー養成講座修了。
日本生活協同組合連合会勤務。
アサーティブジャパントレーナー会員



私の勤める生協では、阪神大震災後、災害発生時の生協の最大の使命は、「全国の生協が協力して、被災地の生協を支え事業を続けることで、被災された方たちの命と暮らしを守ること」と定め、定期的に訓練を行ってきました。今回もこの使命に沿って、地震発生直後から対策本部を設置して緊急物資の送り込みを開始しました。一週間後には、現地の生協の事業再開のために、全国各地の生協から職員派遣

を始めました。北海道や鹿児島からも応援部隊が行きました。

私は、対策本部の中で、現地の要請を受け取り、この要請を、商品調達して現地へ送る部署や応援人員を派遣してくれる他の生協につなぐ窓口を担いました。